

令和4年度 佐世保市学力調査及び長崎県学力調査【中学校】

<佐世保市の結果・改善策等について>

I 佐世保市学力調査

1 調査対象・人数

(国語・数学) 中学校及び義務教育学校後期課程 第1学年・・・1, 992名

2 教科別領域別結果

教科	国語							数学				
	言葉の特徴や使い 方	情報の扱 い方	我が国の 言語文化	話すこ と・聞く こと	書くこと	読むこと	全体	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	全体
市平均正答率	60.1	56.6	68.8	46.4	41.6	53.8	53.6	77.1	70.6	58.6	60.8	67.7
全国平均正答率	64.7	57.4	73.4	48.6	47.0	56.8	57.3	77.3	73.8	59.4	63.2	69.2
全国比達成率%	92.9	98.6	93.7	95.5	88.5	94.7	93.5	99.7	95.7	98.7	96.2	97.8

3 課題と分析及び改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課題 ※【問題番号】	平均正答率		改善策(例)
		市		
		国		
		自校		
国語	○ ことわざの意味を知り、正しく使っている。 ○ 情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。			
	▲ インタビューの内容を聞き取る。意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をしている。【1(3)】	18.3	40.0	・「何のための話すのか、聞くのか」学びのねらいを明確にして、目的意識をもって取り組ませる。聞き取りの授業で、どんな内容を聞き取ることができれば、ねらいが達成できるのかを確認して取り組むことで、情報の過不足の判断など、ねらいにそって判断し、対応ができる活動を仕組んでいく。
	■ 指定された長さ、二段落構成自分の考え及び体験を基にして書いている。【7】 ※数値は、それぞれの条件の平均	41.6	48.8	・自分の考えとその理由を明確に書くことができるために、主張、事実、理由付けを明確に区別する三角ロジックを使って意見を書く活動に取り組ませるとともに、「なぜ、そう考えるのか」と「自分はどう考えるのか」ということを常に問いかけながら、物事を考える活動を仕組んでいく。
数学	○ 分数×分数に関する文章題を解くために立式することができる。 ◎ 円の周の長さや面積を求める式を選ぶことができる。			
	▲ 直線が180°であることと、四角形の4つの内角の和が360°であることを利用し、四角形の内角の大きさを求めることができる。【8】	65.8	74.2	・第2学年の図形領域において、多角形の内角の和を様々な解法で演繹的に求める学習を通して、理解を深める。さらに多角形の内角の和から内角の大きさを求める活動を仕組む。
	■ 百分率について理解し、割引後の代金を求める式を選ぶことができる。【14(2)】	56.8	66.2	・数量関係領域では、日常生活にそった内容を取り入れた授業展開を行い、その中で歩合や百分率を視覚的にとらえられるよう教材提示等を工夫する。

II 長崎県学力調査

1 国語・数学

(1) 調査対象・人数

(国語・数学) 中学校及び義務教育学校後期課程 第2学年・・・1, 898名

(2) 教科別領域別結果

教科	国 語					数 学				
	知識及び技能	話す 聞く	書く	読む	全体	数と式	図形	関数	データの 活用	全体
市平均正答率	75.8	44.1	49.9	31.4	51.9	56.6	52.4	46.2	51.8	52.3
県平均正答率	78.3	46.2	53.0	33.5	54.3	59.8	56.2	51.3	53.7	55.8
県比達成率%	96.8	95.5	94.2	93.7	95.5	94.6	93.2	90.1	96.5	93.7

(3) 課題と改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課 題 ※【問題番号】	平均正答率	改 善 策 (例)
		市	
		県	
		自校	
国 語	◎ 同じ意味の言葉に言い換える		
	▲ 文脈に応じた発言内容を考える 【1 三】	21.2 23.2	・ 話し合いの様子を動画で記録し、それを用いて話し合いを分析する学習を行う。ICTを活用して、話し合いの様子を個人で振り返ったり、振り返った内容をグループで共有したりすることを通して、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる活動を設定する。
	▲ その場面における登場人物の気持ちを考える 【2 四】	6.1 5.1	・ 読み取りの学習は、何を読み取らせるのか意図をもって行うこと。文章のジャンルや発達段階に合わせて、学習指導要領の指導事項のどこに該当するのか、明確に意図をもち、授業を行うことが重要である。
	▲ 内容を捉えて本文から抜き出す 【2 六】	19.2 21.9	・ その場面における登場人物の気持ちを読み取る際、その場面の読み取りだけではなく、文章(作品)全体や複数場面を相互に結び付けて、内容理解をすることが必要となってくる。全体を読んで捉えることができる課題を設定し、その課題解決のために適切な言語活動を設定するなど工夫する。
	■ 根拠を示して書く 【3 四】	63.3 64.2	・ 複数のテキストから読み取ったことをもとに、条件に沿って記述するために、まずテキストの関連性及び内容を正しく理解すること、次に条件にあった解答ができるよう、問いの内容を精査すること、それを受けて記述を行い、推敲まで行うことが大切である。生徒がどの段階でつまづいているのかを明らかにして、授業の焦点化を図る。
	◎ 自然数を素数の積で表すことができる。		
	◎ 分数を含む一元一次方程式を解くことができる。		
	◎ 反比例のグラフから、 x と y の関係性を式に表すことができる。		
数 学	▲ 円柱の側面の横の長さを求めることができる。【3(2)】	54.3 59.6	・ 図形の学習の中で、円の周の長さや面積を求めることが必要な課題がたびたびあり、その都度、復習する場面を設定する。さらに、立体の展開図を学ぶ場面で、実際に模型で確認したり、ICT教材を活用したりして、立体についての理解を深める授業展開を行う。
	▲ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。【8(1)】	47.3 53.4	・ 関数領域において表、式、グラフの特徴を理解したうえで、具体的事象を関数関係としてとらえ、式で表現し、問題解決をする場面設定をする。その際、 x や y の値について再確認したり、グループ活動等を通して各自の解法を互いに説明したりする活動を仕組む。
	▲ 問題解決に必要な事象における数量の間に成り立つ関係を明らかにすることができる。【8(2)】	61.1 67.2	・ 様々な具体的事象を、数量の変化や対応に着目して、比例や反比例などの関数関係を見だし、明らかにする学習活動を、各学年の関数領域の中で設定する。また、そのような関数関係となる具体的事象を、生徒自身で探る活動を仕組む。

2 英語

(1) 調査対象・人数

(英 語) 中学校及び義務教育学校後期課程 第3学年・・・1, 803名

(2) 教科別領域別結果

教 科	英 語				
	話す	聞く	読む	書く	全体
市平均正答率		74.5	60.5	25.2	51.7
県平均正答率		74.9	63.7	29.5	54.5
県比達成率%		99.5	95.0	85.4	94.8

(3) 課題と改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課 題 ※【問題番号】	平均正答率		改 善 策 (例)
		市	県	
		自校		
英 語	○ 何をしているところかを正しく説明している英文を聞き取り選択することができる。 ○ イベントの内容に関する情報を聞き取り、活動する順番に絵を並べ替えることができる。			
	■ 文脈から判断し、「どのように」という意味の疑問詞Howを選択する。【4(2)】	46.8	58	・ 疑問詞howは、how + 疑問文や、how + (形容詞・副詞・many) など、それぞれ活用の場面によって文構造が変わる。また、when や whereなどの疑問詞と違い、イメージがしにくい。目的や場面、状況を設定したコミュニケーション活動において、疑問詞を用いた疑問文や普通の疑問文など、様々な英文を用いて相手に尋ねたり答えたりしながら、適切な応答をする活動を繰り返し行う機会を設定する。
	■ 与えられた複数の情報を整理して、カフェでできることを示す適切な英文を選択する。【5(3)】	39.9	45.8	・ チラシなど与えられた複数の情報を整理しながら、正しい情報を読み取る問題であった。チラシの語句と同じものが選択肢の中にある場合、回答しやすい問題であるが、意味は同じでも異なる表現をする問題では、難しく感じるものである。日ごろから、似た表現や言い換え等、意味は同じでも表現が異なる英文に多く触れさせる機会を設ける。
	■ 与えられた状況で、長崎のPRポスターとして、2つのうちどちらがよいかという考えとその理由について英文で書く(語彙)【10①】	21.9	28.6	・ 教科書で学習した題材や内容に関連するテーマや身近なニュースなどについて、自分の考えを表出させる機会を設ける。また、タイトルに合わせて英文を作成するだけでなく、複数の提示物から選んで書かせる機会を設けることで、それらを比べ、同じところや違いを見つけ、生徒が自分の意見に整理しながら、表現する機会を設ける。また、自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、そう考えた理由や根拠を明確に、論理的に書かせる場面を設ける。

Ⅲ 考察

【国語】

- 県学、市学ともに、県・国の平均を下回っている。特に「読むこと」の段落構成や段落の役割について、市学－6%、県学－6.5%となっており、県・国の平均との差が大きい。段落（場面）ごとに読み取るだけでなく、文章全体を俯瞰して読み取ることができるような課題を設定し、それぞれの段落（場面）がどのような役割をしているのか読み取る授業を工夫することが重要である。複数の作品を読み比べるなど、比較をすることで気付き理解できることもあるので、学校司書等と連携して、関連のある作品を提示するなど、多くの作品に接することができるよう工夫する。
- 条件作文で、自分の体験を通して記述することは年々上達している。各学校で記述問題に重点的に取り組んでいる成果が表れている。その一方で、無答率が8.7%から14%と大幅に増えていることから、二極化が進んでいることがうかがえる。無答率については、時間が不足、全く分からない、もしくは解きたくないということが考えられる。課題に主体的に取り組める生徒を育成するためにも、「何のためにこの授業を仕組むのか」という「目的意識」を教師が強く持つとともに、その意識を子どもたちとも共有することが重要となってくる。子どもたちが自分の現状を理解したうえで、その現状をどのように克服していくのか、どのように学習していけば課題が解消されるのかを指し示す必要がある。そのためにも、「単元計画」をしっかりと立て、「何を」「何のために」「どのように」学ぶのかを明確にすることで、主体的に学べる授業、身に付けたい力がぶれない授業を進めることができる。

【数学】

- すべての領域で、正答率が全国や県の平均を下回っている。ただし、分数を含む一元一次方程式を解く問題や、反比例のグラフから x と y の関係を表す問題など、昨年度改善すべき課題とされていた問題で、今年度大きく改善の傾向がうかがえるものもあった。今後も改善が必要な単元や内容を、教師が課題意識を持って、授業改善を進めていくことが必要である。設問の形式として、長い問題文や様々な資料から必要なことを読み取ること、解法について説明することへの正答率が低く課題である。この改善のためには、普通の授業作りの視点・手立てとして、県が示している読解力育成プランの中で、「図や表、グラフから読み取ったことを言葉や文章で表現する活動」や「言葉の定義や意味を正しくおさえたうえで、考えたり話し合ったりする活動」、「根拠を明確にして自分の考えを述べる活動」などを、各単元で計画的に取り入れていくことが大切である。各領域では、特に図形と関数の分野で課題がある。図形の分野で円の面積は正答率が高いが、円周の長さやそれを活用する円柱の表面積を求める問題等で正答率が低い傾向がある。円周の長さを求める文字式と文字式が表す意味が理解できるようにするとともに、立体を実物模型で確認したり、ICTを活用したりして、理解度を高める手立てが必要である。関数の分野では、基本的な知識や技能は改善傾向にあるので、反復練習でさらなる定着を図る必要がある。また課題解決学習の場面では、表、式、グラフの関連性や変数 x や y がそれぞれ具体的にどの数量を表現しているのかなどを確認し、式にある値を代入したり、法則性を利用したりすることで解決するとともに、その解決過程を自分の言葉で正しく説明する活動、及びその活動時間を十分に確保することが大切である。数量関係を見出し、その関係性を使って問題解決したり予測したりする体験を、各学年で繰り返し仕組んでいくことで、関数のよさを知り、学んだことを活用していこうとする生徒を育成したい。最後に、本市や各学校での課題への意識を持って教材研究を進めるとともに、単元の大きな目標やその題材を活用する場面、また他の単元との関連性をしっかりと見据えながら、生徒にとってつながりのある継続した学習活動となるよう、1時間1時間の授業の構想立てが、学力向上のためには重要である。

【英語】

- 「聞くこと」においては、状況や場面、事物を描写説明した単文レベルの英文を正しく聞き分けたり、まとまりのある英語を聞いて、その内容を表すように順番に絵を並べ替えたりする問題は概ねできてきていることから、絵やグラフなど聞き取るためのヒントがあれば理解しやすいことがわかる。しかし、英単語や英文など英語の文字に関連する問題では課題が残った。授業の中で、聞いた英文の中からわかったことやポイントを書き記したり、互いに伝え合ったりすることで、綴りと音の関係にも意識ができると思われる。また、「書くこと」については、昨年同様、基本的な語や文法事項、時制の違い等の知識の定着やそれらを活用することに課題がある。例えば、「英語で日記を書こう」という活動をさせる場合、「今日は楽しかった。」と今日を楽しく過ごしたことを表現したい場合、「Today was fun.」だけであると考える生徒は少なくない。楽しかった気持ちを英文にするならば、「I had a good time.」、「I had fun.」、「I enjoyed ~.」などで表現できる。しかし、日本語を英語に訳しようとするため、「今日」や「楽しい」、「be動詞の過去形」の単語がわからず1語も書かないままになってしまったり、辞書で調べた語をそのまま書いてしまい、文の構造に問題が生じることがある。まずは、既習の語彙や簡単な英語を用いて言い換えたり、いろいろな表現をみんなで共有したりして、表現の幅を広げることが大切である。さらに、それらの語彙や表現を「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能を通して活用させることで、既習事項の定着を図ることができる。また、無答率については、ほとんどの設問において、昨年度よりもやや改善されている。その要因として、各学校で課題である「書くこと」の改善を目指し、「書くこと」を意識した授業づくりに取り組んでいるためと思われる。4技能を通して、表現する楽しさや自信をつけさせるとともに、堂々と自分の考えを表出できる生徒の育成を図っていくことも大切である。